

JR東海グループで既存社宅を活用した リノベーション開発を開始

～既存資産の再生で環境負荷低減と地域活性化をめざして～

東海旅客鉄道株式会社（代表取締役社長：丹羽俊介）とJR東海不動産株式会社（代表取締役社長：谷津剛也）は、JR東海グループが保有する社宅等の既存資産を活用し、リノベーション型住居開発事業を開始します。社員社宅の統廃合によって使用しなくなる建物（以下、既存社宅）を、JR東海不動産株式会社が主体となって再生し、新たな住まいとして提供します。建て替えではなく再活用することで、環境にやさしく持続可能なまちづくりを推進していきます。

1 プロジェクト全体の目的

- ・ JR東海グループの既存資産の有効活用
- ・ 社員社宅として地域コミュニティを育ててきた建物を、新しい暮らしの場として再生し、地域の活性化に貢献
- ・ 既存資産の再活用による環境配慮（建設資材削減に伴う廃棄物・CO₂排出の削減）

2 第一弾プロジェクト

- (1) 所在地：千葉県松戸市二十世紀が丘中松町
- (2) 内容：既存社宅をリノベーションし、分譲マンションとして事業活用
- (3) 工事着手時期：2026年9月（予定）
(2013年竣工のRC造共同住宅をリノベーション)
- (4) 開発の特徴：既存社宅のリノベーションにより、隣接する土地に開発した戸建住宅・新築分譲マンションとあわせ、住まいの志向、価格帯など多様なニーズ、世代、価値観に応える物件提供を実現。幅広く多くの人に選ばれる住環境を創出することで、地域の活性化に貢献し、持続可能なまちづくりを推進。



地理院地図 Vector（淡色地図）を加工して作成



既存社宅外観



平面プランイメージ



地理院地図 Vector（写真）を加工して作成



※1 オハナ松戸 ガーデニア ※2 セントラルガーデン
ステージ松戸二十世紀が丘

※1 JR 社宅跡地（更地）を JR 東海不動産㈱が野村不動産㈱との共同事業で開発中の新築分譲マンション
※2 JR 社宅跡地を JR 東海不動産㈱が主体となって開発した戸建住宅

3 今後の展開

今回の千葉県松戸市のプロジェクトを皮切りに、静岡県静岡市や大阪府高槻市など、他地域でJR東海グループが保有する既存社宅を活かしたリノベーションモデルの事業展開を通じて、環境にやさしく地域特性に合わせたまちづくりを進め、沿線地域の活性化に貢献していきます。